

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議

だい 10 期 だい 2 年 だい 3 回 だい 1 にち
(第 10 期 第 2 年 第 3 回 第 1 日)

ぎじろく
議事録

1 日時 2015 (平成 27) 年 10 月 18 日 (日) 午後 2 時～5 時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 23 人

張 氷青、葉 元聡、任 冢林、劉 健全、金 スンオグ、孔 敏淑、崔 想、
河 相宇、ヴィラマー ジェリー、タカハシ ライゼール ラモス、牟 鳳菊、
グエン ゴク バオ リン、ヘイ ジャ フィ、仲田 シリワン、ヒラチャン
アスカ、ケゼン グア エドワード、セヌー ジョアキム、鈴木 イエレナ、
バルトコバ オクサナ、園田 泉 ベアトリス、河本 ファビオ 良則、
シフケン ブランドン、オルソン チャールズ、

(2) 事務局

石川 室長、町田 担当課長、八木 担当課長、須藤 課長補佐、小田切 担当
係長、丸橋 職員、西村 職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 12 人

5 会議次第 (公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

セヌー委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議、2015年度第

3 回第 1 日を開催する。今日は、ダニエラさん、董さん、王さんから欠席の連絡が届いている。本日の応援職員の紹介を、事務局からお願いする。」

(事務局須藤課長補佐が紹介。)

セヌー委員長「それでは、本日の日程と配付資料の確認について事務局からお願いする。」

(事務局須藤課長補佐が説明。)

セヌー委員長「続いて、前回会議のまとめについて事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料 1 に基づき説明。)

セヌー委員長「それでは、議事に入る。最初は、国際交流ラウンジ(仮称)の設置についてだ。今日は、参考人として川崎市国際交流協会から渡部課長と中村課長に来ていただいた。今日は、よろしくお願ひいたします。まずは事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料 2-1、2-2 に基づき説明。)

セヌー委員長「それでは質問と回答が資料 2-1 にまとまっているので、主なものを確認したい。事務局に質問を読み上げてもらうので、回答をお答えください。」

(資料 2-1 に基づき事務局高橋専門調査員が質問を読み上げ、渡部課長と中村課長が回答。)

セヌー委員長「ありがとうございます。では、追加の質問を受けつけたい。私たちの関心は、国際交流ラウンジの設置なので、なるべく関連する質問をお願いします。」

タカハシ委員「川崎市国際交流協会は、この国際交流センター以外での活動などはあるか。」

渡部課長「現在、川崎区と麻生区の区役所の中に、外国人の相談窓口を設置している。」

孔委員「2011年の震災以降、国際交流協会でも災害支援のあり方について調査・研究を行っているとのことだったが、もし具体的な動きがあるなら私たちが提言しなくてもよいかと思うし、お互いに協力できることがあればしたいと思う。」

渡部課長「2011年の震災以降、3年間、調査・研究をしてきた。今年度からはそれを実践に移していこうと考えている。後で紹介しようと考えていたが、

10月31日にこのホールで外国人市民のみなさんにも参加してもらい話し合ってもらおう企画を予定している。」

ヘイ委員「ロビーの利用状況について教えて欲しい。私の知る限りだと年配の方が利用しているのをよく見るが、平日も含めてどういった状況か。私たちが考えているラウンジのイメージでは、気軽に来られる場所というのが1つのポイントになっているので。」

中村課長「正確なデータを持っているわけではないが、実際、昼間のロビーは年配の方が多。会議室やレセプションルーム、ホールなどは幅広い団体が利用している。」

劉委員「国際交流協会がセンターの運営で一番苦労していることを教えて欲しい。

それとうまくいっている事業例についても教えて欲しい。」

渡部課長「苦労していることとしては、やはり立地の問題がある。場所を移転するというのはできないので、なんとかスムーズにたどり着けるように案内を工夫したいと考えている。」

中村課長「毎年7月の初めにやっているインターナショナル・フェスティバルは約1万人以上の人の参加があるし、今年の10月には日本とブラジルの国交120周年を記念してブラジリアン・フェスタを開催した。そういったイベントなどでたくさん交流ができていい例かと思う。それと、年度末に開催している日本語スピーチコンテストは昨年度で20回を迎えた。外国人の方から率直な意見を聞けるし、その後の交流会では本音の話し合いもできているように思う。こういった催し物ができるのは、やはりこういう場所があって、地域のみなさんの協力があるからだと思う。」

河委員「2つ質問がある。1つは、相談内容によっては行政に根本的な改善が必要ではないかと思うものがあつたときに、市に対して何か提案をしたりすることがあるのか。もう1つは、代表者会議と情報を共有したりして、今後お互いに連携していくことの可能性についてご意見をお聞きしたい。」

渡部課長「たしかにそういうケースもあるので、市に対して情報提供はしている。

連携は当然必要だと思っている。代表者会議との連携もぜひお願いしたい。」

セヌー委員長「時間になったので、追加の質疑応答はここまでとしたい。今日は参考人としてお越しいただきありがとうございました。（拍手）予定していた振り返りは時間が過ぎているので次回にまわす。次はオープン会議に

ついてだ。まずは事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料3に基づき説明。)

セヌー委員長「今の事務局の説明について、質問や意見はあるか。」

ケゼンダ委員「A案とB案についてメリットとデメリットが書いてあるが、やはりB案のデメリットの事前に準備ができないというのは大きい。だからA案がよいと思う。A案にもデメリットはあるが、臨機応変に対応できると思う。」

劉委員「A案をもとにしてB案にも対応をできるようにしておくのがよいと思う。

リーダーとサブリーダーは決めておいて、当日の参加状況を見ながらグループ分けをすればどうか。」

バルトコバ委員「たしかに、グループの人数はなるべく少ない方がいいと思う。」

仲田委員「参加者の人数は予想できないので、大事なことはコントロールするリーダーの役割だと思う。」

河委員「当日はそれぞれの役割もあって慌ただしいので、状況をみながらグループ分けをどうするのか考えるのは難しいと思う。」

葉委員「A案は、人数が多い場合にはサブグループをつくるという方法もある。それなりに臨機応変に対応できる部分もある。仲田さんが言ったようにリーダーの役割が重要だ。」

崔委員「A案に賛成だ。もし、A案に賛成の人が多いのであれば、決をとってしまって、リーダーを決めるのに時間を使った方がよいと思う。」

シフケン委員「私もA案に賛成だ。人数というよりも、B案の言語ごとにグループをつくるというのはよくないと思う。大体、同じ言語を話す人たちは、似たような考えになるのではないかと思う。さまざまな意見が出た方がよい。」

セヌー委員長「では、グループの数を決めたい。グループの数は6で賛成の人は手を挙げてください。(全員賛成) それでは、グループの数は6で決定だ。次にグループリーダーを決めたい。リーダーをやりたい人は手を挙げてください。(園田、任、葉、河、ヒラちゃん、金) ちょうど6人だ。サブリーダーをやりたい人は。(ヘイ、河本、ケゼンダ、タカハシ) あと2人、誰がいるか。それでは、ひとまずこのメンバーは決定としたい。賛成の人は挙手をお願いします。(全員賛成) 時間が過ぎているが、次はグループの分け方だ。事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料3に基づき説明。)

セヌー委員長「質問や意見はあるか。」

劉委員「A案とB案どちらでもよいと思っっている。だが、別に言語ごとにグループをつくっても、同じ言語だからといって視野が狭くなるとは思わない。」

ヒラチャン委員「B案でも結局できるグループというのは、英語と中国語ということになるのではないかと思う。代表者もバランスよくわかれた方がいいと思うので、A案がいいと思う。」

セヌー委員長「それでは決をとる。国籍・地域や言語をバランスよくミックスするA案に賛成の人は手を挙げてください。（賛成多数）では、A案に決定した。事務局から何かあるか。」

事務局高橋専門調査員「オープン会議はもう来月だ。代表者のグループ分けとリーダー、サブリーダーのペアは正副委員長と事務局で決めてよいか。（異議なし）それと、資料に当日の役割分担案と通訳ができる言語のリストがある。変更の希望がある人はあとで事務局まで連絡をお願いします。」

セヌー委員長「これ以上は時間をかけられないので、あとは勉強会で詳しいことを確認したりしよう。では、部会審議に移る。社会生活部会はレセプションルーム、福祉教育部会は第1会議室に移動してください。全体会の再開は16時30分だ。」

【福祉教育部会】

園田部会長「それでは、部会を始めたい。まずは前回の内容の確認を事務局から願います。」

（事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明。）

園田部会長「時間もないのでさっそく提言案の検討に入りたい。事務局から説明をお願いします。」

（事務局高橋専門調査員が資料4-1に基づき説明。）

園田部会長「今、説明があったように、実際に提言案を見てみて、子育てガイドブックの多言語化だけではあまりにもピンポイントなので、子育て支援という提言にして、外国語版母子健康手帳の周知も入れたらどうかと思った。みなさんの意見をぜひ聞きたい。」

バルトコバ委員「この会議に参加するまで、まったく知らなかった。2013年に子どもが生まれたが、区役所に行っても外国語版があることを教えてくれなかつ

た。普通に日本語のものを渡されただけだった。」

劉委員「私も外国語版があることを知らなかった。」

ヒラチャン委員「私はこの前だったが、高津区役所では教えてくれた。ちょうど英語版がなかったので、後で自宅に送りますねと言ってくれた。」

園田部会長「多分、区や担当者によって対応が違っているのだと思う。それと、ある程度日本語が話せると日本語のものでよいと判断されてしまうのだろう。」

バルトコバ委員「日本語が話せても、読めない人はいる。そういう人は少なくない。

勝手に判断しないで、必要かどうか確認して欲しい。」

河本委員「必要な人は自分から言わないと、職員は日本語を渡すのではないか。」

仲田委員「どこの窓口でもらえるのか。私は高津区と多摩区でもらったときには、違う窓口だった。」

事務局須藤課長補佐「今は児童家庭課だ。以前は保健所だった。」

劉委員「せっかくなので、仲田さんが提案していた子育て広場に関する情報の周知も提言に入れたらよいのではないか。」

金委員「子育て広場の情報は、各区の子育てガイドブックに詳しく書いてある。なので、それは子育てガイドブックの多言語化でカバーできると思う。」

園田部会長「内容の確認についてほかに何かあるか。（なし）それでは、子育て支援については、このまま案の作成を進めてもらいたい。次の提言に移る。事務局から説明をお願いします。」

（事務局高橋専門調査員が資料4-2に基づき説明。）

園田部会長「高校進学については、過去に提言されているが、今、もう一度提言する意義はあると思う。何か質問や意見はあるか。」

バルトコバ委員「日本の高校のことがよくわからないのだが、私立学校はレベルが低いのか。公立と私立だと何が違うのか。」

事務局高橋専門調査員「レベルは高い学校もあれば低い学校もある。私立学校だからレベルが低いというわけではない。公立と私立の大きな違いは学費だ。公立と比べて私立はお金がかかる。」

園田部会長「そろそろ時間だが、もう一度全体で何かあるか。」

崔委員「子育てガイドブックの多言語化は、多言語化するだけでなく、その配布も積極的に行って欲しい。」

園田部会長「それでは、今日は以上で終わりにする。」

【社会生活部会】

任部会長「それでは、部会を始めたい。前回の会議で提言のテーマを1つに絞ったが、時間がない中で焦って決めたこともあり、会議の後に実はよく理解できていなかったという意見を多くもらった。一度会議で決めたことではあるが、よく理解できていないものを決定としてしまうことはよくないと思う。今日、最初に決めたいのは、前回の決定を一度白紙に戻して、あらためて提言のテーマを選ぶかどうかだ。前回の決定を取り消しとすることに賛成の人は挙手をお願いする。（全員賛成）それでは、あらためて資料5-1にあるテーマの中から選ぶことにしたい。候補は、「介護分野の就職支援」「居住支援」「区役所サービス」「情報伝達」の4つだ。賛成の人は挙手を。（全員賛成）それぞれのテーマについて説明や補足はあるか。」

孔委員「介護分野の就職支援についてだが、以前に高津区で説明会があった時に参加してみた。実際に多くの外国人が『就職したい、仕事をしたい』といていた。永住者で子育てが終わった女性が多かったが、関心のある人はとても多かった。」

タカハシ委員「居住支援についてだが、二週間前くらいに川崎に住んでいる外国人たちを支援している団体に行き話を聞いてきた。そこで聞いたのは、大家さんからの差別ではなく、不動産屋での差別があったという話だった。去年のアンケート結果でも入居差別を受けた経験があるという人はいた。本当に差別なのかどうかはわからないが、そのような経験をした時に相談できる窓口が必要ではないかと思う。」

任部会長「区役所サービスについては、今日はダニエラさんが欠席だが相談窓口には外国人がいると相談しやすいということだったと思う。情報伝達については、私の今日の印象だと先ほど参考人で来ていただいた国際交流センターとも協力できそうな気がした。相談窓口と情報伝達に関しては、全体でのラウンジの中でカバーできるものも多いように思う。」

孔委員「情報伝達の中の『やさしい日本語』の充実もカバーできるのか。」

任部会長「説明不足だったが、たしかに『やさしい日本語』の充実はラウンジとは分けて考えた方がよいかも。需要もあると思う。決をとる前に、まだ話をしていない人に希望を聞いてみたいと思う。」

葉委員「私は、居住支援を提言にするのがよいと思う。」

ヴィラマー委員「私の希望は情報伝達で、オンライン支援やコールセンターがあると

よいとおもっている。」

セヌー委員長「私は、居住支援がよいとおもう。制度はあるが、差別も残っているようなので改善が必要だと思う。」

シフケン委員「私も居住支援がよいと思う。差別は人種差別だけに限らないとも思う。」

オルソン副委員長「居住支援に賛成だ。」

グエン委員「私の周りのベトナム人には困っている人はいないので、具体的な提言のイメージがわからないのだが、反対ではないので、みなさんが賛成なら私も応援したい。」

任部会長「では、4つの中で提言にしたいものに1人1回、挙手をお願いする。まずは、介護分野の就職支援。(2人)次に、居住支援。(8人)続いて、区役所サービス。(0人)最後に、情報伝達でやさしい日本語の充実。(1人)居住支援が8人で一番多かった。居住支援を除いて、もう1回希望を聞いて第二候補を決めたい。」

グエン委員「社会生活部会から2つ提言を出してもよいのか。」

事務局丸橋職員「部会としての提言の数は決まっていない。1つだけでもいいし、2つでもいい。」

任部会長「第二候補が必要ないと思う人は手をあげなくてよい。では、第二候補について希望を聞く。介護分野の就職支援。(1人)区役所サービス(0人)やさしい日本語の充実(7人)それでは、結果を見ると提言を2つにしたいと思うが。」

河委員「私はもう時間がないので、居住支援の1つにしてもよいと思う。」

タカハシ委員「『やさしい日本語』のサイトは、もっと充実した方がよいとおもっている。理由としては、この一年半で話していたテーマの中でよく出ていた問題は、サービスがよくわからないなどPRの問題だ。もし、『やさしい日本語』のページが充実すれば、いろいろな情報の問題の改善につながると思う。」

葉委員「私はさっき一回しか挙手しなかった。それは『情報伝達』について提言することに反対という意味ではなくて、『情報伝達』にしたいなら、もう少し絞らないと難しいと思ったからだ。というのは、『情報伝達』は、外国人だけの問題ではなくて、おそらく日本人でもいろいろな必要な情報が手に入らないということがある。私が中国にいるときもそうだった。ただ、『情報がない』『知らない』というだけでは、ぼんやりしていて具体的な解決に結びつかない

と思う。」

孔委員「実は、ホームページにはやさしい日本語の情報はいろいろあるようだ。ただ、それぞれの部署がそれぞれの部署のページに情報を載せているので、見つけにくい。やさしい日本語のページに情報を集約するとよいと思う。」

任部会長「少し整理したい。第一候補は居住支援、第二候補はやさしい日本語ということでよいか。賛成の人は挙手を。(全員賛成) 第三候補は厳しいと思うので、部会の提言は2つでよいか。(異議なし) それでは、時間なので今日はここまでとする。事務局は次回、提言案の作成をお願いする。事務局へのリクエストがあればメールを。お疲れさまでした。」

【全体会】

セヌー委員長「全体会を再開する。まずは部会報告を福祉教育部会からお願いする。」

園田部会長「福祉教育部会では、提言のたたき台の確認をした。子育て支援では、前回までは子育てガイドブックの多言語化ということだったが、外国語版の母子健康手帳についてもあまり知られていないということがあるので、周知してもらうことを提言にくわえた。今日は時間もあまりなかったが、内容に大きな問題はなかったので、次回は文章化してもらい、より提言のかたちに近づけてもらうことにした。」

セヌー委員長「福祉教育部会の人から補足はあるか。(なし) 社会生活部会から質問や意見はあるか。(なし) では、社会生活部会から報告をお願いする。」

任部会長「社会生活部会では、前回決定をした提言の候補について見直しをした。まずは、全員でもう一度検討し直すことを決定した。もう一度検討した結果、1つは居住支援を提言にしようということになった。主な提言の目的は相談窓口の設置だ。もう1つは、情報伝達なのだがこれはやさしい日本語に絞ることにした。次回、事務局にたたき台をつくってもらって深めていきたい。」

セヌー委員長「社会生活部会の委員から補足はあるか。(なし) 福祉教育部会から質問や意見はあるか。(なし) それでは、次は実行委員会報告だ。まずは臨時会実行委員会からお願いする。」

オルソン副委員長「実行委員会では事務的なことを決めた。当日の自己紹介を短く

するために代表者のプロフィールを資料に入れることにした。それと、当日の名札に話せる言語の目印をつけることにした。それと、当日のアンケートの内容確認をした。」

セヌー委員長「今の報告について質問や意見はあるか。（なし）では、次はニューズレター編集委員会からお願いする。」

孔委員「次回、3月に発行予定のNo. 56の記事と担当者を決めた。」

セヌー委員長「何か意見や質問はあるか。（なし）最後に、市民祭り実行委員会からお願いする。」

ピラチャン委員「（市民祭りの出欠状況を確認）午前中に参加する人はパレードがあるので、各国の民族衣装などがあればお願いしたい。テントの企画では、各国のお茶ということでこちらもみなさんに提供をお願いしたい。」

セヌー委員長「質問や意見はあるか。」

河委員「先ほど臨時会実行委員会が出た意見だが、市民祭りではオープン会議の宣伝もしっかりやりたいので、協力をお願いする。」

セヌー委員長「実行委員会報告は以上だ。時間になったが、少し報告したいこともあるので10分程度延長したい。賛成の人は挙手をお願いする。（賛成多数）。以前にも話したが、市長報告のときに福田市長に会議に来てほしいという話をした。会議として正式に招待状を出したいと思っている。異議のある人はいるか。（異議なし）では、今日の議事は終了だ。事務局から事務連絡をお願いする。」

事務局丸橋職員「事務連絡は3つある。1つ目は、第11期の代表者の募集についてテレビ神奈川でPRしてもらえることになったので、片付けが終わったらビデオ撮影をしたい。2つ目は、オープン会議のPRで識字学級へ訪問する。都合のよい日を事務局まで連絡して欲しい。3つ目は、10月20日の火曜日にやさしい日本語講座という研修会を市役所で行う。関心のある人はぜひ参加して欲しい。」

セヌー委員長「回りの会議はオープン会議だ。オープン会議は11月15日、日曜日、午後2時からだ。ここ国際交流センターで開催する。これで2015年度第3回第1日の会議を終わりにする。お疲れさまでした。」